

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.197

発行: 令和4年 8月 1日



講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況などによって中止、または、内容を変更させていただくことがあります。あらかじめ、ご了承くださいませよう、お願いいたします。

「神楽岡公園 夏の自然観察会」

とき 令和4年8月21日(日)

午前9:30~11:30 定員15名

講師 森の写真家 阿久津 弘明さん

森林インストラクター 佐藤 まゆみさん



「おいしい野菜を作る土づくり講座」

とき 令和4年9月24日(土) **500円**

午後1:30~3:30 定員15名

講師 緑のセンター相談員

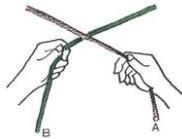


「庭木の冬囲いを覚えよう」

とき 令和4年10月1日(土)

午後1:30~3:30 定員10名

講師 公園緑地協会職員(緑のセンター)



「ヒオウと秋植え球根の寄せ植え」

とき 令和4年10月2日(日) **2,000円**

午後1:30~3:30 定員10名

講師 緑のセンター相談員



令和4年度 **連続講習会** 13:30~15:30

コショウランの花を来年も咲かすための講座

第2回・8/7(日) 第3回・9/25(日)



四季成り風イチゴ栽培講座

第2回・8/28(日)



講習会の開催予定

講習会のお知らせは、緑のセンターだより、市民広報などでお知らせいたします

- *令和4年10月 立派なコショウランをもらった時の講習会Ⅲ
- *令和4年10月 果樹剪定と栽培管理

公園緑地協会

公式 YouTube チャンネルのご紹介

緑のセンター温室『月下美人』



展示会のご案内

「ミニ盆栽展」 * 9月17日(土)~ 9月18日(日) * 作品展示: 旭川ミニ盆栽会

「木の実・草の実写真展」 * 10月 1日(土)~10月30日(日) * 作品提供: 神田 亘雄さん

【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です。(")





8月の園芸作業

1、鉢花・草花・球根類

- **ユリ**や**グラジオラス**は、花が終わったら早目に花がらを摘みましょう。花がら摘みのあと、球根肥大のため化成肥料を少量、株元に施しましょう。
- **ベコニア類**、**ゼラニウム**などの草花は水と肥料を施し、花がら摘みを続けます。
- **シクラメン**はお盆が過ぎたら、新しい用土に鉢の周り3分の1程削り、一回り大きい鉢に植替えましょう。
- **ペチュニア**の伸び過ぎた枝が、見苦しい時は切り戻しをしましょう。

2 庭木・果樹類

- **サクランポ**の灰星病は、地表面に落果した罹病果が菌核化して越冬するほか、樹上でミイラ化した被害果でも越冬します。翌年の伝染源となる病果の処分を行いましょう。集めて地中深く埋めるか、ゴミとして処分しましょう。
- **ツツジ**等は既に花芽ができていますので樹冠から飛び出した新梢だけを切り戻し樹形を整える程度にしましょう。
- 甘い**ブドウ**をつくる為には葉に太陽の光を十分当てるのが大切です。枝が重ならないよう誘引し、葉の付け根から出る副梢(わき芽)は葉を2~3枚残して切り取りましょう。
- **イチイ**、**マツ**類の樹形を整える整枝・剪定は8月中旬~9月下旬が適期です。

3 観葉植物類

- 6~7月に引き続き、植替え、挿し木、株分け、取り木の適期です。
- 植替え用土は、赤玉6、腐葉土3、火山礫1、の混合土が一般的に使われています。

4 多肉植物・サボテン類

- **シャコバサボテン**は未熟な新芽(莖節)に花芽は出来ないので、8月中旬までに未熟な新芽は摘み取ります。肥料は打ち切ります。



9月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

- **スイセン**類、**クロッカス**、**シラー**等の球根は中旬から下旬に植え付けましょう。
- **インパチェンス**、**アキランサス**、**コリウス**、**ガザニア**、**ニチニチソウ**、**ロベリア**等、四季咲き性の草花は、冬の間も花を楽しめます。初霜前の9月中~下旬に鉢上げして、室内で栽培します。
- **アザレア**は開花準備時期です。肥料を打ち切り、乾きすぎないように管理しましょう。
- **ポインセチア**や**ハイビスカス**等の耐寒性のない鉢物は9月中旬には入室しましょう。**ポインセチア**や**カランコエ**は短日植物なので、夕方5時から翌朝8時まで光が当たらないようにします。
- **常緑で越冬する草花**には、耐寒力をつけることが大切です。草木灰・硫酸カリ等カリ肥料を9月上旬から施用し始めましょう。

2 庭木・果樹類

- **西洋シャクナゲ**等、寒さに弱い花木にはカリ肥料(硫酸カリ・草木灰)を与えましょう。
- **生け垣**、**玉物**等、新芽が伸びて不揃いになったものは随時刈り取りましょう。
- **イチイ**、**ヒバ**、**マツ**類の剪定は9月下旬までに終わせましょう。
- **ポタン**、**シャクヤク**は、夏が過ぎて気温・地温が低下してくると新根が伸びてきます。株分け植替えは、新根が伸びる9月上~中旬までに終えましょう。

3 観葉植物類

- 夏季間に戸外で管理していた観葉植物類も9月下旬までに多くの種類を室内に移しますが、入室前に病害虫防除を入念に行いましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- **シャコバサボテン**は短日植物ですから、夜は光の当たらない部屋で管理します。
- 寒さに弱い種類は9月中旬までに室内に移します。

植物の病害

その68 「コナガ」 … アブラナ科野菜に被害

1 被害を受けやすい植物

(キャベツ、ハクサイ、ダイコンなど)

令和4年発生予察では、アブラナ科野菜全般にコナガの発生が「多い～やや多い」と報告されています。



幼虫の食害 (キャベツ)



成虫

2 被害

幼虫は葉裏から円形または不規則な形に小さく葉肉だけを食害し、葉の表皮を薄く残すため、食害痕は白く透けて見えます。定植後間もない幼苗期に高密度に食害されると枯死することもあります。幼虫は結球部も好んで食害して、品質を著しく損ないます。

3 生態

露地では少なくとも年5回発生します。成虫は融雪後の4月上旬～中旬頃から降雪の見られる11月頃まで継続的に発生し、その盛期は7月～8月です。成虫は、平均気温が12℃を越える5月中～下旬頃から産卵はじめ、葉裏に1粒ずつ扁平で乳白色の卵を点々と生みつけます。20℃の好適環境では卵期間が4日、幼虫期間は15日で、幼虫は3回脱皮して、葉裏の葉脈近くで網目状のマユを作り蛹化して成虫になります。

4 防除法

ベニカベジフル乳剤、ゼンターリ顆粒水和剤、ベニカベジフルスプレーなどを散布します(成分名略)。

🌸🌸🌸 緑のセンターまつり2022を開催しました 🌸🌸🌸

6月25日(土)午前10時より「緑のセンターまつり2022」を開催しました。

緑のセンターの屋外では、旭川農業高校の生徒さんが育てた球根ベコニアや数種類の鉢花の即売。山野草趣味の会員が育てた山野草の即売、グリーンテックス(株)から培養土などの即売会もあり、それぞれのコーナーで多くの方々がお買い物を楽しまれました。

フォトスポットでは色とりどりの花に囲まれた花壇と芝生にオシャレな演出を設け、ご来場された皆さんが笑顔とともに撮影。インスタ映えする夏の思い出の機会になりました。

参加型のイベントでは、自然生態観察区でスタンプラリーに幅広い年代の方約50名が参加して楽しめました。プランターディスプレイには、花を植える機会がない方々に植え付け体験をしていただきました。その他公園内では「自然写真撮影会」をはじめ、「ハーブで作るバスソルト作り」、「葉っぱに色を付けてうちわ作り」と、お子様から大人



の方も身近な植物や自然に触れる機会を通して、楽しい笑い声と笑顔の輪が広がりました。センター内では旭川ミニ盆栽愛好会によるミニ盆栽の作品展示。押し花サークル「つくしんぼ」による押し花作品の展示の他、お子様限定の講座「植物鉢をデコって、オジギソウを植えよう！」や、「花の寄せ植え講座」、「観葉植物の寄せ植え講座」を開催し、参加者の個性が活かされた作品の完成に満足笑顔が広がる催しとなりました。…多くの皆様にご来場、ご参加いただき、誠にありがとうございました。



シルバーリーフを楽しむ

緑のセンター円形花壇にアジサイの植栽があります。外周にはシロタエギクが混植されています。

シロタエギクは、葉色を楽しむ「シルバーリーフ」の代表格で、フェルト状の毛が密生した銀白色の葉が美しいキク科の多年草です。

「西南暖地では冬の花壇に重宝されていても、旭川では翌春には消える・・・??」と思っていたところ、今年も主役のアジサイを引き立たせています。冬囲いも何もしないのに何年も越冬している強者です！

- 1、栽培環境・・・水はけの良い場所に植えることがポイントです。日当たりと風通しの良い場所を好み、高温・多湿を嫌います。大きくなると草姿が乱れるので、早めに切り戻しをして株を整えます。日照が不足すると葉の色が悪くなります。挿し木で殖やすことが可能です。
- 2、用土・・・鉢植えで混植する場合は、春と秋が植え替え時期になります。古い土を落とし一回り大きな鉢に植え替えます。水はけと通気性の良い土であれば、市販の草花用培養土でも問題なく育ちます。自分で用土を配合する場合は、赤玉土6と腐葉土4の割合で混ぜた混合土が良いでしょう。地植えだと土を耕す際に、予め堆肥を混ぜておくと育てやすい用土になります。
- 3、水やり・・・鉢植えの場合は株が蒸れると状態が悪くなるので、鉢の表面の土が乾いてから水やりをします。受け皿の残水は捨ててください。地植えの場合は、根付いてからの水やりの必要はありません。
- 4、肥料・・・鉢植えで混植を楽しみたい時、葉色で混植にアクセントを加える「リーフプランツ」として他の草花との寄せ植えに使うことが多いことから、肥料は一緒に植えてある草花の基準で与えれば十分です。
- 5、剪定・切り戻し・・・黄色の小さな花が咲きます。しかし咲かせると株が弱るので定期的に切り戻し剪定をします。切る丈は好みの位置で切って問題なく、定期的に切り戻して新しい葉を出して美しさを保ちます。3～5月、10～11月頃に剪定した場合は、茎を挿し木することで殖やすことも可能です。

展示室の植物 (103)

ズルカマラ 学名 *Solanum dulcamara* ナス科 ナス属

一見すると畑の雑草イヌホウズキに似た植物です。ヨーロッパや北アジアなど広い地域で生息していますが、湿気を好むので、どこでも見られるという植物ではありません。緑のセンターでは夏も盛りを迎えた頃、展示室の外花壇付近で見ることができます。花はナスの花によく似ています。花が咲いている一方で、小さな実が緑から赤に変わるので、一つの植物でありながら色の変化を楽しむことができます。茎はツル性なので曲げられることから生け花に使われることもありますが、「実や葉には毒がある」といわれているので注意してください。

